

The background features a modern building with a large glass facade. In the foreground, two large, highly reflective spheres sit on a gravel surface. The spheres reflect the building and the sky. The overall scene is brightly lit, suggesting a sunny day.

特別障害者手当等の受給資格に係る 実地調査の取り組みについて

北部保健福祉事務所障害者支援班

主事 松田 華枝

1 はじめに

特別障害者手当等制度とは

- ❖ 在宅で重度の障害のある人々の精神的・経済的な特別な負担を軽減する一助として手当を支給することにより、精神又は身体に著しく重度の障害を有する人々の福祉の増進を図ることを目的としている。

- ❖ 当所では、受給資格の適正な審査及び在宅生活の質の向上を図るため、必要に応じて他職種共同による調査を行っている。
- ❖ 本報告は、調査の結果から、対象者の実態を明らかにするとともに、課題を整理し、今後の在宅福祉の支援のあり方について検討することを目的とする。

2 実施方法

1 対象

- ❖ 平成22年4月から12月までの間に新規申請及び有期認定の期限到達のため再認定の必要がある者を対象とした。

- ・障害児 5名（新規0名、有期到達5名）
- ・障害者 20名（新規19名、有期到達1名）

2 実地調査の方法

- ❖ 対象者の自宅を訪問し、障害の程度や日常生活動作(ADL)について評価を行った。
- ❖ 下記の項目について聴き取りを行った。
 - ・現病歴
 - ・生活の様子
 - ・サービス利用状況
 - ・在宅生活を継続する上で困難と感じていること

- ❖ 対象者の障害の程度や日常生活動作（ADL）を正確に評価するために、当所のリハ職に同行の協力を得た。
- ❖ 介護・療養環境の状況や生活課題について情報を共有することを目的として、対象者と関わりのある者（町の障害福祉担当者及び保健師、担当の介護支援専門員など）に同席を依頼した。

3 結果

❖ 高齢者からの申請が多い

1 年 齡

障害児

年 代	人 数
5歳以下	0
6～12	4
13～18	1
19～20	0

障害者

年 代	人 数
20-30代	1
40-50代	0
60-70代	8
80代以上	11

2 診断書(障害種別)

❖ 障害児は精神・知的障害、
障害者は肢体不自由が多い

	障害児	障害者
視覚障害	0	0
聴覚障害	0	0
肢体不自由	1	18
内部障害	0	2
精神・知的	4	0

3 手帳の有無

身体障害者手帳

- ❖ 障害児1名、障害者16名（申請中1名含）
- ❖ 1種1級の交付を受けているもの12名

療育手帳

- ❖ 障害児は対象者全員が交付を受けており、障害者は交付を受けているものはいなかった。

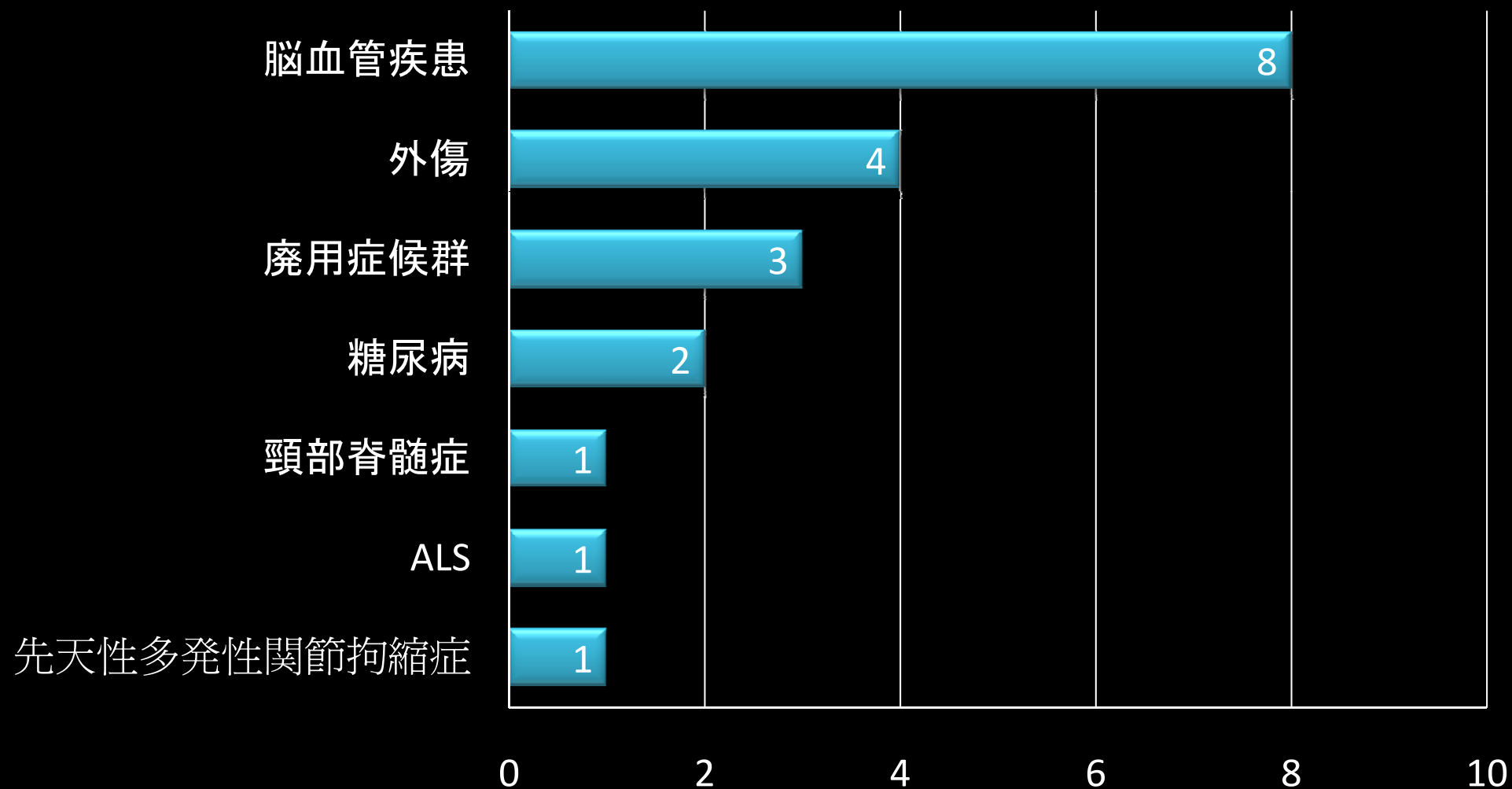
4 障害の原因となった傷病

障害児

- ❖ 自閉症(2名)
- ❖ 精神(発達)遅滞(2名)
- ❖ 低酸素性虚血性脳症(1名)

4 障害の原因となった傷病

障害者



5 審査結果

- ❖ 実地調査の結果が審査会の結果に反映され、日常生活動作の評価点が変更されたものは4名あるが、却下に至った事例はない。

3-2 対象者の状況

1 現病歴

障害児

❖ すべて先天的な障害である。

障害者

❖ 受傷後、自宅療養となり、廃用症候群のため
身体機能が低下したものが多い(18名)。

2 生活の様子(障害児)

学童期

- ・支援学校に在籍。ADL半介助～全介助。
- ・余暇は自宅で過ごしている。

18歳以上

- ・施設に通所している。
- ・ADL全介助。家族が介護している。

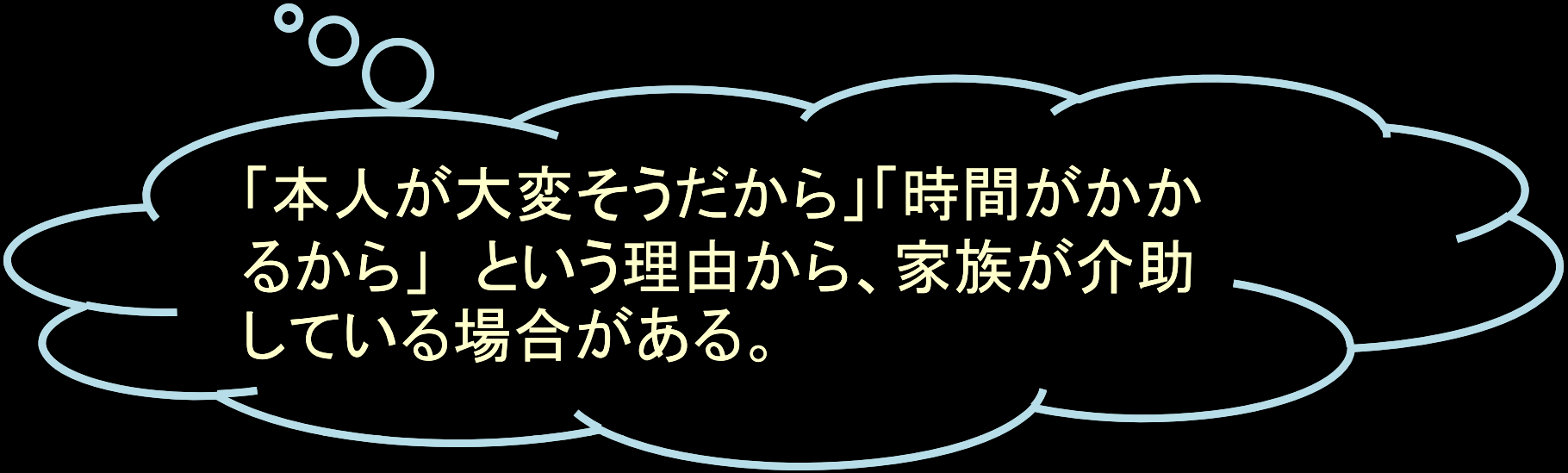
重症児

- ・人工呼吸器、胃ろうを使用。
- ・ADL全介助。
- ・訪問教育を受けている。

2 生活の様子(障害者)

- ・常時ベッド上の生活 (18名)
- ・車イスでの生活(1名)
- ・補装具を使用しながら通所施設へ通所している(1名)

◆対象者全員がADL全介助(20名)



「本人が大変そうだから」「時間がかかるから」という理由から、家族が介助している場合がある。

2 生活の様子(障害者)

コミュニケーション

- ・会話が可能 (6名)
- ・意思表示可能(4名)

- ・意思疎通困難(6名)
- ・不可能(4名)

3 サービス利用状況(障害児)

学童期

- ・利用していない。

18歳以上

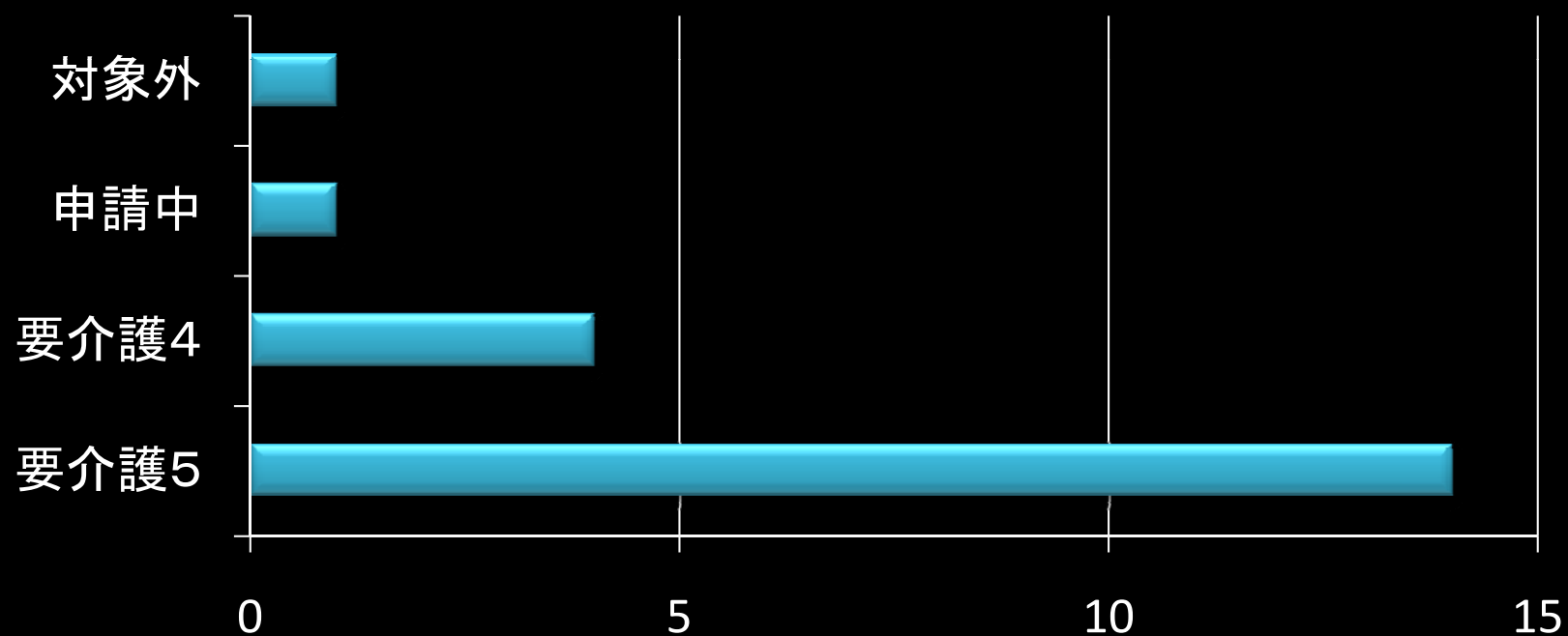
- ・訪問介護、ショートステイなどのサービスを利用。

重症児

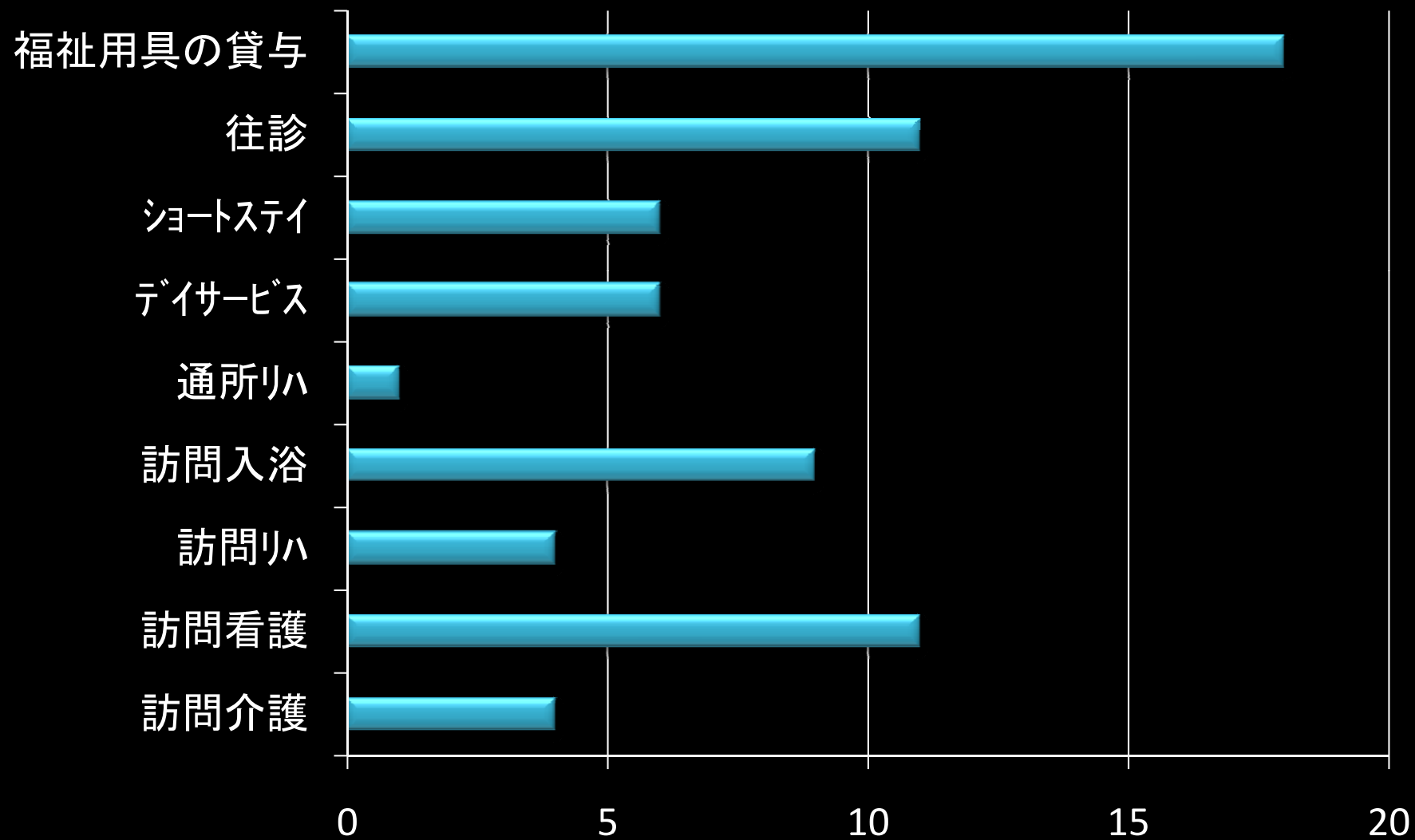
- ・訪問看護、通所介護、ショートステイなどのサービスを利用。

3 サービス利用状況(障害者)

❖ 介護保険制度利用者が19名
(申請中1名を含む)



❖ サービス利用状況



❖ 医療状況

・胃ろう	5名
・気管切開	3名
・中心静脈栄養法 (IVH)	2名
・バルーンカテーテル	1名
・透析	2名

4 在宅生活を継続する上で困難と感じていること 【家族から】

障害児

- ・介護者が高齢のためいずれは入所希望。 1件
- ・児童デイの利用希望。 1件
- ・管内には重症児のショートステイの受け入れ先がない。 1件

障害者

- ・特になし。 5件
- ・介護全般が負担。入所希望。 1件
- ・介護者も高齢であるため介護負担を感じている。 2件
- ・更衣などの介助に困難さを感じている。 2件
- ・経済的な理由でサービスを増やせない。 1件
- ・病状が良くなることはないので今の状態を維持していきたい。 1件
- ・デイサービスやショートステイを利用できれば介護者も休めるがIVHを利用している者は受け入れ先がない。 2件

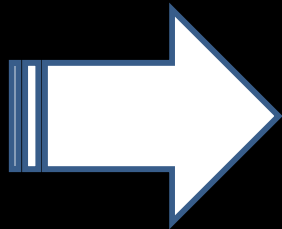
4 在宅生活を継続する上で困難と感じていること 【介護支援専門員から】

- ・病院で自立に向けた支援が行われず、寝たきりとなって自宅療養となるケースがあり、医療と介護の連携に困難さを感じる。
- ・経済的な理由や本人及び家族の希望からサービスを増やすことができないケースがある。

4 考察

障害児

- ❖ 障害が重度のため常に見守りが必要。
家族の介護負担が大きい。
- ❖ 地域に利用できるサービスが少ないため、
家族に過度な介護負担が強いられている。



地域の受け入れ先の拡充

障害者

- ❖ 身体機能の低下を引き起こした直接的な原因は、
寝たきりの状態が長期間にわたることによる廃用症候群のためであった。
- ❖ 急性期を脱した後に、在宅での生活を目指した支援が継続して行われることが重要である。



医療と介護の連携が課題である現状からも、
地域リハビリ体制整備推進事業の施策の充足
が円滑に進められることを期待したい。

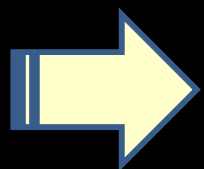
❖ 十分な介護・療養環境にあるとはいえない
ケースや、介護者に過度な負担が掛かる
ケースが散見する。



実地調査の機会を利用して、対象者の生活上の
課題に対して助言や解決策を提案し、町の担当
者や介護支援専門員を含めた介護・療養環境に
ついての検討が必要である。

5 まとめ

- ❖ 実地調査から、診断書等の書類だけでは把握できない対象者の実態について把握することができた。
- ❖ 他職種共同で調査を行うことで、より正確に障害の程度等の評価が可能となった。



受給資格の適性審査につながった。

❖ 今後は、受給資格の認定調査ではあるが、こうした機会を活用して、在宅で重度の障害のある人々の生活課題に対する効果的なサービス利用等の解決策を提案し、在宅生活の質の向上を図る場としても活かしていきたい。